

平成23年12月2日（金）午後2時～
亀田郷土資料館 3階 会議室

第5回(仮称)江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会 議事録

出席者

大江山地区：和田和之・熊倉宗衛

亀田地区：田辺豊平・熊谷喜作・森田一郎

曾野木地区：小林洋一

横越地区：阿部兵一・仲村正

両川地区：五十嵐和也

公募による委員：保科桂子

事務局：太田英次・枝並素子・新田見哲也

新潟市文化財センター：今井さやか

設計事務所：新居千秋都市建築設計 新居未陸

次第1・江南区地域課長あいさつ

「みなさんこんにちは。江南区地域課長の太田でございます。本日は12月になりまして年末を迎え大変お忙しい中、また第5回の(仮称)江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。これまでの4回も大変お世話になっております。段々展示についてどのような物を飾っていくのか、どんどんとイメージを膨らませていってみなさまの目に映るようになってきております。ただ一言残念なお話ですけれども、委員であられました青木彬樹さんが急に亡くなられるというご不幸がございました。私もお通夜いけませんでしたので、告別式に行きましたけれども、この懇談会で大変貴重なご意見をいただいております、これから資料館を運営していくなかで大変な人を亡くしたと心寂しく思っております。そういった意味でもこれからはみなさんのお力をお借りして資料館の建設それから運営についてご尽力いただきたいと思いますので、今日一日よろしく願います。(太田)」

・会長挨拶

「今お話にもありましたように青木彬樹さんが亡くなられました。大変貴重なご意見をいっぱいいただいております、これから地図などの借用などにはご尽力いただこうと思っておりましたのに、大変残念に思っております。11月5日の日に亡くなられて11月7日に通夜11月8日に葬儀が行われました。それではご冥福を祈りまして黙祷を捧げたいと思いますのでご起立をお願いします。それでは黙祷。はい、ありがとうございます。この前第4回の会合では資料館の中を見学してその後館長からどんな展示物があるかどんな展示構想があるか詳しく説明をいただきました。今日は今度それを進めて具体的にどんな風に展示していったらいいかというところまで話がいくといいと思いますが、よろしく願いたいと思います。本当に皆様から貴重なご意見をいただいております、大変ありがたいと思

っています。これからもぜひよろしくお願いしたいと思っております。今日はまた少しさらに一歩進んで具体的にどんな風な展示を考えていったらいいのかというところまで発展していったらいいという風に思っていますので、よろしくお願いいたします。それでは議題の1番であります(仮称)江南区郷土資料館の展示内容について。(森田)」

「はい、その前に連絡があります。本日出席者の中に新潟市の文化財センターの今井さんも出席していただいています。アドバイザーとして出席をお願いいたしました。みなとびあの岩野学芸員さんにも案内を出してありますが、まだいらっしゃっていませんが案内はしてあります。あと設計者も本日は現場の方に居るという事で現場の打ち合わせが終わって、これから出るという連絡が先ほどきましたのでもう少しで着くかと思います。あと先ほどお話がありました青木さんの事です、両川・割野方面青木さんが亡くなったという事で五十嵐さんからお話もいただきまして豊岡豊郎さんという方を後任として今お話をしていましてご快諾得ました。今日ご案内したんですが今日はちょっとご都合が悪くて欠席ということでもあります。それから今日の欠席の連絡が志賀さんと佐藤裕吉さんが欠席のご連絡をいただいていた。では最初に議題の方、今日は(仮称)江南区郷土資料館の展示内容についてということで、後で隣の和室の方に行きますと新しい郷土資料館の大きい図面をご用意しましたのでその上に若干物を落としながらみなさんからご意見がいただけたらなと思います。その前に昔亀田郷土資料館でコピーがあった鶯の子の文書を鶯の子の自治会の方にお話したら自治会の会館の中にある金庫の中に本物がありまして、それを館長と二人で借りにいきまして一応今借りている状況なんです、いい文書が見つかりましたので館長の方からその説明をちょっとさせていただきます。お願いします。(枝並)」

「今日のご苦勞様でした。よろしくお願いします。今お話がありました鶯の子の文書なんですが、随分前にこの亀田の町で地域の方々から文書類をたくさんお借りしたんです。そのかなりのものがコピーをした後返却されてしまっていました。返却ですと例えば展示しようとする時コピーじゃしょうがないんです。例えばこれは鶯の子集落の新田の検地帳です。これは鶯の子の出発のときの検地帳です。これは貞享元年ですので沢海藩の検地帳です。そしてそれより後に同じ鶯の子が新田を開いたということで宝暦6年にあるんです。これ2つ出す意味がないんじゃないかと思うのですが、実は私はこのところが非常に興味関心がありまして検地で沢海の場合は一反を三百歩にするとこういうことになっていると書いてあって、こちら三百歩の勘定で何反何畝何歩となっております。ところが新発田藩の検地帳は江戸時代ずっと通して三十六歩一反ということになっていますのでこれを新発田藩の検地帳と並べると同じ検地なのにそして同じ地域なのに違っている検地になります。本当は新発田藩が検地したときは三十六歩一反で検地したんですが、沢海藩になったときに理由はどうも利益をあげるためじゃないかと思うんですが、位を下げないで同じ一反でこれだけとったのかもしれないけども違っていますので検地帳は非常に有効だなと

思っ。これは出来たらぜひ展示したいという風に思っているんです。新発田藩の検地帳をぜひなんとか手に入れたいと思っていたんですが、横越町史には新発田藩の検地帳の横越の検地帳はあるんですけども、あれに関わられた歴史文化課の福田さんに聞きましたらあれは一冊の本になっているんじゃなくてどこかの大学が借りていって、返した時に表紙とあとほんの2～3枚しかないということではぐくりしたんですね。あと亀田には検地帳はありませんですし、大江山にもありませんし他の地域にもありません。それで歴史文化課の福田さんに聞きましたらこの横越嶋の検地帳の中で新発田藩の検地帳が残っているのは笹口新田の検地帳だということだったんですね。それでその笹口新田の検地帳の持ち主に電話をしたらご当主が3年前に亡くなっていて今年その奥さんも亡くなって非常に家の中がごちゃごちゃしているのでそれについてはちょっと見せるという気持ちになれないからだめだといわれて少し時間がかかってどうなるかを決めなきゃならないんですけど、そういうことで新発田藩の検地帳はもしかすると横越村の表紙と何枚かくつついた分を展示すると。ただその新発田藩の検地帳も上田とかランクが書いてあります。沢海藩の検地帳は上田とか下田とかランクがありません。これをご覧になったらわかりますがただ地名と縦横のサイズとそして誰の持ち物かという事だけが書いてあるだけでその田んぼが上とか中とか下とか下々普通ならあるのですがないそういう検地帳なんですね。それからそういう意味での検地帳を見るにも少し面白いと思うんですが、なかなかそれが横越でいいのが見つければいいんですけども福田さんの話では見通しが暗いという話ですので、それと笹口新田のも借りられるかどうかわかりません。あと非常に意味がありましたのは、鵜の子と泥瀉と茅野山が1セットで、それと亀田とか荻曽根とか貝塚新田・西山二ツの村々とのいわゆる水の喧嘩ですねそのいきさつなどが書かれているのがありました。それを読みますと、非常に詳しく書いてあります。それと同じようなものが亀田の町にもありました。江戸出入り覚書というのがありましてこれは非常に面白いなと思います。こういうのも情報として並べて見せるというのも1つの手かなという風に思っています。地域の方たちに了解を得ていますので展示できればいいかなと思っています。鵜の子の万延元年に書いた文書があります。それは、荻曽根の人と鵜の子の人との喧嘩なんですけど、そこに非常に面白いと思いましたが、その万延元年に荻曽根の人が鵜の子の人に怒られているのがあるんですけども、そこに書いてあるのがその荻曽根の人が自分の田んぼが深場なので毎年土を入れているという話なんですね。そして今年はその土を蒲原村から買ってきて入ると。それを舟で運んで自分のところの水門脇にあげようと思ってきたけど水がいっぱい、どこが通る道かわからないので通っていたらつかえて、そのつかえたところを通ろうとしていたらそれを鵜の子の人に捕まってしまって、おれんとこの土手をなんで分けたんだと言われ、鋤簾と舟は取り上げられてしまった。ということで喧嘩になったいきさつがあるんですね。蒲原村まで行って買っていたなんていうのは驚きましたんで、これは江戸時代の情報として亀田郷の情報を出すには非常に面白いなと思いました。そういったものを私は展示するのも1つの方法かなと思いました。そういったことで鵜の子の文書は

非常に面白いものがいっぱいありました。あとは毎年の年貢の割付とか、ちゃんと納めたか書いてある文書が残っています。水害のときの結果なんかが書いてあって、水損で皆無作と書いてあるんです。それで年貢はいらないと書いてあるんです。そうかと思うとちゃんと採れた年、あるいは今度は干ばつで干損で皆無作なんてのもあるんですね。そういうのを見るとこらの農業は江戸時代どれだけ大変だったのかなというのがわかります。そういう面で鶴の子の文書は非常に価値があるいい文書だと思っています。あとで向こうの部屋に行きまして実際に並べるときにこの場所でこういうのが展示できるかと示したいと思いますのでその時にお考えを教えてくださいなと思っています。以上です。(新田見)」

「ありがとうございました。ちょっとお聞きしたいんですけどもこの前区役所だよりも、もしも資料があつたらお話を聞かせてくれというものが出たんですけどもそれについて何か反応はありましたでしょうか。(森田)」

「1冊黒崎ものがたりというものをいただくことが出来ました。自費出版されたものです。あともう一件歴史課の福田さんにお聞きしたのは早通りの佐々木さんですね。そこのお宅にも文書があるというお話でした。ここにももうかなりきてはいたんですけどコピーしたものだったので佐々木さんにお電話しました。そうしましたら来月あたりに見せていただけるかもしれないです。あそこも大きな庄屋さんだったので資料があるかなとは思っています。(新田見)」

「はい、では今までの話の中でなにかお聞きしておきたいことがありましたら出していただければと思うのですが。なにかございませんか。では無ければ別室に今度出来る郷土資料館の大きな平面図があるそうなのでそこへ行ってどこになにを飾るのかみていただきたいと思いますので別室のほうへ移動をお願いします。(森田)」

「展示コーナーと書いてあるその部分は設計者の方が説明したときにはそこは農機具類を並べるといっていたその場所ですね。そこは廊下になっているんです。そして常設展示室・企画展示室・講座室ということになっています。(新田見)」

「ここは壁がありますけど全部取っ払ってこの間の現場のようにもなります。壁は全部取っ払えます。机とかイスは脇の倉庫に納まります。壁面はわきのところから出てきて、ピクチャーレールがついていてパネルとかも飾れるようになっていますし、動いてくる壁が色々な向きに変えることが出来るで、展示の仕方も自由に色々考えることが出来ます。それでここはガラスケースになっていまして、壁面に画像が映る画面がありまして何かビデオなどを流せますし、ホールの何かやっている講演も流すこともできます。なのでここが

もし農具ってことになりましたら今まである様な亀田郷の昔の農業の様子などをビデオなどで流せば道具を見ながらこういう風に使ったんだよというのが映像を見ながら使った様子がわかるという展示の方法も可能です。(枝並)」

「そしてこの2階にもあるんですね？(森田)」

「はい、この2階にこれと同じ大きさの展示コーナー2というものがあまして、そこは今の資料館の2階にある民具を中心に棚があってそこに並べようかなと思っております。(枝並)」

「ずっと昔からある現有の地図を時代順に展示したほうがいいと思うんですよ。(仲村)」

「それですね、まず常設展示室はこの前見ていただいたりしましたので考えていきたいと思うんですが、やっぱり物の順番からいけば時代の流れで考えていくので、古い時代の亀田砂丘から始まって遺跡類ですね。こういったものが地図とか一覧表になったものがありますのでこういったものを出さなくてはいけないと思うんですね。あと大事な笹山前遺跡から出たものも返していただかなくてはけませんですし。そのほかにも色々ありまして、それは何を出せばいいかということは私よりは専門家がいらっしゃいますので、今井さんにお話をさせていただきながら繋げていくのがこの縄文・弥生といったものですね。あとこの中にはこの辺り一帯は中世が弱いんですね。中世の情報があんまりありません。あるとしたら居多神社の木津氏の名前が出ていますね、あと国立民俗博物館にある1563に横越という地名と新潟という地名が出てくるということで、非常に新潟県の人にとってはありがたいものなんですが、あと直江兼続の横越の地名が出た文書、それくらいが中世との関わりで出せるかなと思っています。あと当然新発田藩がスタートさせているわけですから新田開発のものなどを出す必要があると思いますし、横越嶋の絵図などあとは村々の開発の年表も出さなければならないと思うんですね。それと先ほどお話ししたんですがこれが横越村の検地帳なんですけどこれは横越町史に載っています。それと沢海藩との検地帳をこの2つを出しますとその頃の政治の違いでこうなったというのがわかるんですね。さっきの大水があったときのその後の鶉の子の様子が書いてあるのがあるんです。田んぼに採れるか見にきたらないので年貢はいらないよというものです。それと先ほどお話しした訴訟問題もあります。ということでここでは近所の喧嘩を中心に展示すればいいのかなという風に思っています。土がなかったから蒲原まで買いにいったとかそういった水害のことがわかる文書を出したほうがいいと思うんですね。あとそういった水害で困ったので新発田の殿様がおかゆを食べさせるよと御触れを出しているんです。それを食べにいったときの絵もあります。あと新発田藩がレシピを作っているんです。これは資料館でも展示しているんですけども、私はこれは展示室に展示するんじゃなくて囲炉裏の部屋のところに

掲示しようかなと、囲炉裏の部屋の壁に展示しておかゆというものはこうやって作ったんだよ書いて展示するというのも1つの手かなと思うんですね。新発田藩は農業に一生懸命で社倉もしてたんですね。社倉はどういうわけか天保年間にやめちゃったんですけどもね。そういったことで水害と生活の苦しさはセットになるかなと思っています。そうすると(企画展示室)このコーナーは亀田の市と機織とそれから舟ですねそれと横越嶋の物産についてをこのコーナーでは展示したらいいかなという風に考えています。横越嶋の物産については中蒲原郡史に書いてありまして、梨・根菜類(大根・ごぼう・すいか・かぼちゃ・きゅうり・真桑瓜・れんこん)・梅・たけのこ・金魚・傘・草履・どじょうなどの物産について展示したらいいんじゃないかなと考えています。そうしますともうこれ以上いったらだめなんです、最初のスタートの景気づけですので、これが明治以降の水郷地帯がどう今のように変わったかということを出せばなという風に思いまして、まず新栗ノ木川のことを出して、そして洪水があったことも出しまして、排水機場のことを出して、特に大事なものが、地図でもって変化している様子を示すのが大事なんじゃないかなという風に思っているんです。この5万分の1の地図を比べますと土地改良しないところがどうなっているかがわかりますので。(新田見)」

「これ全部収まりますかね。(熊倉)」

「それは立体的にするしかありません。壁にする部分と下におろしてする部分と、そういう風に考えて。ここを教室くらいの大きさだとするとかなりは掲示できますね。常設展示室のサイズを教えてくださいませんか。(新田見)」

「80 平米くらいです。畳でいうと 40 畳くらいです。9 メートルの 8 メートルくらいです。(新居)」

「あの1つだけ、うちもオープンしたてなんですけど、やっぱり個人の利用者さんはあまりいなくてみなさまくらいの数の団体ですとか小学校のクラスとかで見に来るので、そうすると1つの部屋にわっと入るのであんまりいくら仕切りが出来たとしても、せっかくお話をするとってもみんなが入りきらなかったりするので、そういう使われ方をすると確かに仕切りは色々出来るかもしれないんだけど団体さんが入ったときにみんなが入って話が聞けるかとか、活用のしかたで変わるので。(今井)」

「このひとつのマスで 36 席座れる感じです。机もあってイスもあってです。(新居)」

「じゃあ1クラス分くらいですね。(仲村)」

「仕切りなしでやると1クラスがばーっと入って館長さんのお話聞いてというようなことは可能になるけれど、もしたくさん展示したいとなって間仕切りするならば逆に運用の仕方だけでも班ごとに分かれて半分ずつに分かれてお話を聞くというやり方も出来なくはないと思うんですけども。(今井)」

「何を展示するかにもここはみんな今井さんにお任せしてやってもらうとなるとこの部屋1つあります。(新田見)」

「いやいりません。逆にこちらでどれだけ使うかっていうのをどうしてもこれもこれもこれも展示したいっていうのを埋蔵文化財センターについてはこの3マスでなんとかお願いしますという風にしたらその数に合わせた展示を考えますし、そこを決めていただけたらこちら提案の仕方がしやすいですしやりやすくなります。(今井)」

「このガラスケースがありますね。このガラスケースの高さはどれくらいなのでしょう。(森田)」

「全体的には3メートルで飾る部分は約2メートルくらいですかね。一般的な郷土資料館で使うようなケースですね。人が一人入れるくらいです。(新居)」

「背があると遺物だとかなり小さかったり背が低かったりして上がスカスカだから見端が。嵩上げてあげて台を作ってもらうとかしないと。例えば高さを合わせる台の造作ですとかどこまで出来るのでしょうか。(今井)」

「パネルとかそういったものは何枚貼りたいっていうのは教えていただければ。素材の提供も出来ます。グラフィックも対応は可能です。あと大体同じ大きさですので企画室を講座室に出来たりするのでなにかを展示しているときに入れ替えたりとかもできます。それと展示ケースは両側から見えるものになっています。(新居)」

「あといわゆる開館時に講座室も広げて使っちゃってちょっと広く使うことは可能ですか。(森田)」

「もちろん可能です。(新居)」

「そのことで言えばここを私はスタートの時はこの地域でも色んなお宝があるわけですから個人的に持っている方もいらっしゃると思うので、そういった方々の場所として提供できれば景気づけにいいかなと思うんですけども。(新田見)」

「とにかく開館時にね講座室1の方まで広げて2の方はお宝を展示してスタートするということですね。(森田)」

「ちなみにこういった大きな地図ですとか文書を壁で展示したい場合こういった提案がありますか。(今井)」

「一応ピクチャーレールがついています。(新居)」

「じゃあピクチャーレールで上から吊るといった、額がたくさん並ぶような感じをイメージすればいいですか。(今井)」

「上から張り替えることも出来るので印刷したものを何回も入れ替えが出来たりします。(新居)」

「ガラスケースなんですけども反対側からも見えるんですよね。(森田)」

「そうですね。この末端は見えないんですけどもあとは全部両側から見えます。(新居)」

「そうすると裏書があるような地図なんかを飾れば表からも裏からも見えるんですね。(森田)」

「あとこの廊下は一応法規的な意味では避難路線になっています。なのでこちら辺に物を置かれてしまうと法律上よくはないです。(新居)」

「ここは何メートルくらいの幅なんですか。(森田)」

「そこは約4メートルです。舟の幅で決めているので。あとホワイエの外のほうもありますので公民館の方たちと話し合っってホワイエの方に舟を出していただいた方がいいかなと。ここの境の壁はコンクリートになっています。壁があってガラスがあって壁があってガラスがあってという風になっています。あとベンチがるところがありまして、ここで館長話されるかと思ったんでマイクを下の方にいれてあるんですよ。なのでここで館長に座っていただいて子供たちを前に並ばせて話すときにマイクで話すことはできます。そうするとその隙間から展示物が見えたりもします。なのでここでまた別にたまり場を作ったりも出来ます。あとは2つ出入り口がありますのでどちらからも巡回していただけます。(新居)」

「あとこの廊下の部分に水郷地帯の農機具を並べるとなると、私は直接農業をしていたわけではないですからどなたか主体的にやっていただけたらありがたいのですが。そういうことはむりでしょうか。どんな物をどんな風に並べたらいいのか。どんな物が館の性格には一番いいのか。レイアウトなんかは一緒に考えられるんですが何が一番大事かっていうことになると、舟は大事だと思いますし、あとは水車も。地下にあるのはみんな大事そうなんです、全部ということにはいきませんので。色々あるんで選んでいただきたいんですね。(新田見)」

「その辺はこの間の話し合いで出てきた、土地改良区の人たちと話し合いで取捨選択したらしいんじゃないでしょうか。(仲村)」

「でもどうしても多少は土地改良と被るものは出てきてしまうとは思いますが。それで今館長が提案した展示室は芦沼館とは違うので、農具の方は若干被ってしまっても仕方ないかなというその中でじゃあ農具はどのような物を飾ったらいいのかという話になってくると思うんですけども。(枝並)」

「志賀さんは純粋な農家をしていますよね。(小林)」

「もうまもなく資料館に運びこむものと割野小学校に引っ越すものと選ばなきゃだめです。(新田見)」

「農業の四季、農業の1年間の農具の説明などがついた本が確か資料館にあったと思うんだが、それを参考にされると農業の四季で並べられたりするんじゃないか。参考までに。(田辺)」

「資料館となると小学生も来るしお年寄りも来るわけでどの世代のニーズにも応えられる魅力が何か通してないと、それからもし自分が来館する者だとすると繰り返しリピートして行きたいと思えるような館にしたい。なにか年次的に長い面でのスパンで考えておかなくてはいけないのかなと。1回来たらもういいやというのではちょっと。(小林)」

「要は繰り返し来てもらうには今回は必死に考えているのは開館時にどうするかということだけど、その後いわゆる企画展を色々やることによってリピーターで来てもらえるんじゃないかと思うんですけども。(森田)」

「それから地図が多いんですね。訴訟が多いんです。地図が頻繁にあつてしかもそこに宇が書かれているんです。非常に喧嘩が多いもんですからそういう点では大変な場所だった

とは思います。(新田見)」

「あとこういう文書などは専門にやっている方だともう講釈はいらないかもしれませんが、その他の方には何か直訳したものの飾らないとわからないですよ。何かわかりやすく。(小林)」

「でもこう話を聞いていますとリピーターも出来そうですね。色んな地図もあるみたいですし。企画展とかの組み合わせで考えたら大丈夫かなとは思いますが。そしてこの2階は生活用品の展示になるんですね?(森田)」

「資料館の今2階にある生活用品を棚があって衣食住に分けて飾ろうと考えてます。それで講座室1・2のところはオープンの際はその地域の方たちのお宝展なんていいんじゃないかというお話が出てきたんですけども、それが終わりました企画展で大江山地区だったりほかの地区の企画展もそうなんですけど、今お話がきているんですが美術の展覧会をしたいので部屋を貸していただきたいんですけどという話も来ているので貸し出しが出来るスペースとしても考えています。それでこの構想があった時に文化会館の多目的ルームというのが公民館と一緒に使うところがあるんですけど、そこは色々な団体が使う部屋なのでそこを例えば一週間ずっと展示とかにやっていると他の人が使えないのでじゃあ資料館にそういうのができる部屋を設けて、そういう展示を見にきた人たちに資料館も見ていただくという形の入館者も増えて資料館も見ていただくチャンスもあるという形に出来たらいいかなと思っています。その奥の方を今貸し出す予定でいます。ずっと同じ固定の展示でなくてということで。あと北区の博物館の例を見ますと子供たちの夏休みの作品展みたいなものをやれば親子で見に来たついでに資料館も見て帰るというパターンも出来ますので、そういう人たちの入館も得られながらそのときの資料館の様子を見ていただけるといって、実際みなとびあなんかの固定されたガラスケースで同じパネルでっていう展示ですとそれだったら行きませんので、やはりそういう固定されたものではなく変化できるようなといった形でもやっていけてまた地域での企画展も出来ますので、そのときにはまたみなさまのお力をお借りしたいと思っていますのでよろしくお願いします。(枝並)」

「それでこういった実際出来上がってくるのはいつ頃なんでしょうか。(森田)」

「3月くらいになると大体仕上がってくると思います。そうすると大体見ていただけるかなと。ちょっと電気がついていないとかはあるとは思いますが。基本3月の終わるか4月の頭くらいには。それで一応5月の終わりには引き渡しになるんですが、そこから10月までありますからその間に展示のレイアウトどう動かそうとかここに物を入れてからも時間がありますので、そこでまた動かしていただいたり。取扱説明書というのもあり

ますので。今私の方で企画展示室とか講座室のところにどういった照明ができるのかいくつかのパターンがあるのでそういったものも見ていただきながら、また正確な置き場所については考えていただいたりは出来ます。あとは展示ケースの壁面に液晶のディスプレイが入っています。それが公民館の館長の座られるであろう事務室と接続されている状態なので、例えばみなさんで今やっていただいた資料ですとかそういうのをとっておいていただければ我々の方でパワーポイントを組んでずっとスライドショーで流したりということは出来ます。40インチくらいのを3つの予定です。音は両側しか出ないんですけども。基本的にはパソコンに繋いでいただいて、例えばDVDを持っていてそれを館長にパソコンに入れてもらって流れたりとか、あとは写真をひたすら流したりとかここで展示しきれなくて見せたかったものとかをちょっと補足的に使っていただければ。あとはテロップとかをちょっと入れたりとか。(新居)」

「農具の繋がりでごっちの方に囲炉裏のある家を置きたいんですけど、どうですかという話があったんですが。(枝並)」

「ここに入りますか。(森田)」

「入ります。基本的には移動出来るように台車になっていて幅も決めているので、移動することは可能です。1階にある高さの物なら入ります。それ以上だとちょっと難しいです。あとは上の方にはずっと照明がつけれるのがついていますので自分達の好きなように変えられるしどこにでもつけられます。(新居)」

「1ついいですか。かなり学術的・専門的になっていますよね。かなり専門家じゃないと見てなかなか理解出来ないんじゃないかと。やっぱり一般の人を対象にやる場合にはもっと視覚的に見るとか聞くとか触るとか五感的誘っていかないと興味を持って参加するということが少なくなっていくんじゃないかなと思うんですけど。じゃあ具体的にどういうのがあるかというのは今思いつかないんですけど、例えば水車だったら、それを回している女の人の等身大の写真を水車の後ろに置けば、ああやって水車を回すのかと見てイメージができる。そうすれば水車がよくわからない人も写真を見てイメージがしやすくなる。そうすれば農具だけではあれなので写真があればわかりやすいし、例えば舟であつたらその横に舟ソリを並べるとか、深場を歩く下駄を置くとか、泥を上げて舟に乗せるじょれんを置くとすると全部繋がってくる。そうすると今まで関心のなかった一般の人も写真で見たり、同じ関連の道具で見てそういうものがわかってくるとなると興味が湧いてくるんじゃないかなと思いますのでその辺もひとつ考えてみてください。(田辺)」

「全くその通りでいいことだとは思いますが、亀田郷土地改良区もとてもわかりや

すくなっているんです。あその場所とこの場所は凄く近いのに同じようなものを並べても、行く人はこっち見てじゃああそこも行こうとして行ったら同じ物しかなかったら残念ですからね。何かその並べるにしても意味合いの違った物を並べてもらいたいと思うんですよね。(保科)」

「例えばここで先ほど言われていましたが、ハンズオンといって手で触ったりとか実際体験するようなコーナーにさせていただきたくて設けたんですが、芦沼館もずらりと綺麗に並べてはあるんですが、芦沼館の方は触わる事は出来ませんし乗ることもだめですし、例えばこちらは子供を乗せてあげるとかですね触っていいよと、映像と同じく乗っていただけるような体験的なことが出来る、民家も入っていただけるようにして、それでガラスからは亀田縞を着ていた人たちの映像を流して、館長の方がずっと廊下を歩きながら説明していただくと芦沼館みたいにただ並べてあるだけという感覚よりは進化していただけるかなと思います。(新居)」

「芦沼館はランダムに置いてある感じで全部を見ていたら疲れてしまう。なので先ほど話があったように春夏秋冬で並べて農業したことがなくても順序がわかるようにしたら。水車の話でもそうですが何か見て自分も農業に参加しているような時間的な経過をわかるように。たくさんは並べなくていいと思うんです。ただ芦沼館とは違う性格のものがいいと思います。(小林)」

「ちょうど部屋も3つありますので、廊下から春夏秋冬と並べたりも出来ますので。ホワイエの方も使っていただきたいですし、農業でお米の話を見た後にレストランで美味しいお米を食べましょうとなってレストランも使っていただけますし。(新居)」

「今色んな良い意見が出ているんですが、四季の順に並べるとか、いわゆる土地改良区とは少しは違いを出したいとか、あまり学問的ではなくて見やすい、わかりやすいような展示にするとか出ましたが、何か他にありませんでしょうか。(森田)」

「それから絵とか彫刻とか亀田郷で作っていた人たちもいますので、そういった物も並べる施設もぜひ資料館にほしいなと思うんですけども。(保科)」

「常に場所がないので常にというのは場所的に無理かなと思うのでやはり期間を決めて美術とか横越の人たちのつていうのもいいと思いますし、そういう場所にはもちろんしていかなくてはいけないとは思っています。そのスタートの時にお宝展というのもどれくらい出てくるかもわかりませんですし、オープン時に常に絵をずっと飾っておくスペースがあるかっていうとそれもちよっと厳しいかなというのがあります。(枝並)」

「せっかくの機会ですのでどんどん出していただいて、そして今度は具体的にじゃあどういう風なものを持ってくるかというのを常にみなさまに意見を出していただいて、他にまだお気づきの点がございましたらもう少し出していただけるとありがたいです。あの民家には自由に子供たちを上がらせるということですが、それですと随分違いますよね。見ているだけのと実際に上がってみるのでは。私が今ちょっと気になっているのは先ほどあったようにもうそろそろ格納に入る物と、展示するものとそろそろ考えていかなくてはという話だったのでそうするとだいぶ急がなくてはいけないと思うんですけども、今後我々が集まるのはいつですか。(森田)」

「あと残り2回は予算的に大丈夫です。今2階の民具は整理していて並べられるか見ていて入りそうなんです、そうするとあとは下の農具だけですので、下の農具は先ほどのお話であんまり並べず時系列ごとに並べましょうということならば、それを選んであと残りは割野小学校に行くしかないかなと思います。あと展示室の方は今1階にある物を使いながらという話になるかと思いますが、ここら辺の市場とか機織とかは今1階に展示してある機織機をどなたが糸を替えてくださるとかで。(枝並)」

「機織機は今度片山さんが黒くなって古くなっている糸を青いものに替えてくださるというお話になっているので、それを展示するといいと思うんですね。(新田見)」

「そうするとそれを子供達が実際に機織をするというのは。(枝並)」

「それは少し難しいですね。壊れたら大変ですし。でもボランティアの方たちがちょっとやってみたりというのでは可能性があると思います。(新田見)」

「1つ聞きたいんですけど、ホワイエ側の廊下は天井から何か軽い物を吊るすとかそういうことは出来るんですか。(熊倉)」

「天井はないんです。10メートルくらいの吹き抜けになっています。壁をもってくればかけることは出来ます。ガラスの脇の壁は軽い感じのものしか貼れないです。それか置いていただくか。あとはスタンドを使っただけとか、コンクリートなのでセロハンなので貼っていただくことしか出来ません。部屋の方はピンで貼ることも出来ますし、吊るすこともできます。(新居)」

「映像が出るっていう画面に流したい写真をパワーポイントのスライドショーみたいな形で出すっていうのは反対側の画像ところでは出来るからそれはやりようでは出来るかなと

は思うんですけど。(今井)」

「これにはセメントのいわゆるうちっぱなしですか。(森田)」

「そうです。そういう所にもつけられる道具が一応あるので検討はします。(新居)」

「最後に1つだけ皆様のお考えをお聞きしたいんですけども、私今回文化財センターの方から来まして遺跡部分の展示についてのところをご提案させていただきたいんですけども、その際に限られたスペースなんですけども限られたスペースの中で縄文・弥生・奈良・平安・中世という風にしていく方がいいのか、江南区にはこんな遺跡がありましたよというようにちょっと時代を抜きに1つの遺跡という感じで江南区の遺跡の紹介にした方がいいのか、皆様の的にはどちらがよろしいですか。(今井)」

「いわゆる時代を追って順々にやるんじゃなくて、例えば江南区にはこういう遺跡があるよという展示がいいのか。どちらがいいでしょうか。どちらもいいみたいなんです。(森田)」

「遺跡別でも年代が違うのもあるんでしょう？それを年代物に並べてもらえれば一番いいんじゃないでしょうか。どっちもは無理なんでしょう。量的には。(阿部)」

「そうですね、どこまでスペースがいただけるかっていう問題もあるんですけどもあとはまとまった遺跡で、お話をするととなると調査をしたことのある遺跡となると限られてしまって地域の偏りがどうしても出てしまうんです。せっかく江南区の文化会館だから色々な所のお物を出したほうがみんなにより親近感を持ってもらえるというのであれば、時代ごとにしてなるべく色々な地域の物がくるようなものもありなのかなっていう風に思うんですが。(今井)」

「調査していないところもあるわけですからね。(阿部)」

「はい。拾われただけとか下水道のときに出てきただけとかいう物もあるので。ただ時代的なものをやってしまうともうちょっと深い歴史の話にはいかなくて、江南区ではこんなものが出てますよぐらいなお話にはなってしまうと思うんですが。(今井)」

「地域の人からすれば自分の地域ではこういうのがあったよという方が親近感が出てくるんじゃないかな。時代的にずっとこうするとちょっと自分たちとは離れたところにあるイメージがあるんじゃないかなと私は思います。だから出来たら親近感のある自分たちのだと

わかる地域ごとの方が案外みなさん身近に感じて見てくれるんじゃないかな。(田辺)」

「地域ごとでがっつりとやるとちょっと亀田に偏ってしまう部分があつて。(今井)」

「年代ごとにやったら地域出てきませんか。(森田)」

「ちょっと上手いこと考えてみます。(今井)」

「例えば何回かこれからやっていく中で今回はなんとか遺跡に絞ってとかやれるんだけど、最初だからみんながあれはオレのどこだとか思えるほうがいいと思うんですよね。(森田)」

「なるべく広い地域で。でもそうすると時代に若干偏りが生じる可能性はありますけども、その辺りを目をつぶっていただければ、なるべく江南区の広い地域で。(今井)」

「曾野木なんか何も出てきてないですよ。年代にしようが何にしようが。私個人から言えばそれはもうやむを得なと思うんですよ。出てきたらまた後日出せばいいわけであつて。多少地域に偏りがあるのは仕方ないと思うんですよ。年代は当然必要なものであるけれど、ある程度まとまって見やすくした方がいいかなと思います。(小林)」

「どこどこ出土って書かないですか。(仲川)」

「それは書きます。書くんですけど、例えば発掘調査をした遺跡だったらこの遺跡はどんな人が住んでどんな生活だったかということをお話で書けるんですが、ただ拾われたただけだとそこまで書けないっていうのが出てくるので、そこまではいらないから時代順に色んな地域のを並べたほうがいいでしょうか。(今井)」

「江南区で調査した遺跡って何箇所くらいあるの。(阿部)」

「大江山の方から言いますと、笹山前遺跡・城山前遺跡・こまる山遺跡・東かこい遺跡、あと亀田が一番多いので、亀中ここは79年にもう始まってます。一昨年くらい学校の改築の時もやっています。有名なのが駒首潟のイオンのところの遺跡、あとは日水、県の調査でバイパスのところでふしみち遺跡という曙のところと西ごおい遺跡という有名な文化会館のところからも出ています。(今井)」

「出来ればどんな生活とかがわかった方がいいですね。(森田)」

「ですと、多少の地域の偏りには目をつぶっていただきたいです。では、時代ごとに代表的な調査をされた遺跡を出す、それでその遺跡ではどのような生活をしていたかわかる解説を入れるような形でよろしいですか。(今井)」

「そうすると亀田砂丘の生成については出さない方がいいですか。私は出してほしいんですが。(新田見)」

「両川地区は出てきていないですか。両川地区は出てそうなんですけどもね。(小林)」

「両川は小学校を掘ったんですけど、出来る前に試し掘りで。したんですけど残念ながら。やっぱり梨畑とかほかのところより若干標高が高いところというものは、しっかりオレンジの粘土で出やすいんですけど、たまたま学校の予定地だったところは田んぼだったので残念ながら遺跡は。多分自然堤防の上に乗ってれば出る可能性はありますし、曽野木も一部掘ったことあるんですけど、しっかりとしたオレンジの粘土はあったんですけどちょっと残念ながら出なかったです。(今井)」

「私はその新砂丘Ⅰの説明があった方がみなさん関心持つんじゃないかと思うんです。福島からの火砕流から来たというのは非常に興味深いと思うんですけどね。(新田見)」

「4時近くなくなってきましたが、みなさん何か他にありませんでしょうか。そうすると次の会合の時には具体的にどんな物を展示するかというのを決めなくてははいけませんね。(森田)」

「今日のこの大体の内容でみなさんどうなんでしょうか。大体いいのでしょうか。(枝並)」

「少しいメージが湧きましたが心配なのは、いわゆる1階の部分に置くのがどんなものか。触ってもいいようなものも考えるとじゃあ具体的にどんなものが可能なのか。そんな事を頭におきながら今日はもういいでしょうか。では次回は1月の末頃で。それか2月の上旬に。(森田)」

「曜日はわかりますか。(仲川)」

「曜日は毎週金曜日にしていたので。木曜か金曜か、設計者さんがいるのが水曜か木曜なので、もしかしたら木曜日になるかもしれません。(枝並)」

「これをやるとなったら一番最後は現在の写真とかなんかになるんですか。平成23年の航

平成23年12月2日（金）午後2時～
亀田郷土資料館 3階 会議室

空写真とか。現在の様子として入るのですか。(熊倉)」

「亀田郷が今の姿になってると示さないとだめかなという気がしますがね。(新田見)」

「航空写真といってもすぐに撮れるものでもありませんし、資料があればいいんですけども。(枝並)」

「それと芦沼館との関わりもありますので、その辺もちょっと考えていかないとだめですね。(新田見)」

「はい、では今日も色々な良いご意見をいただきまして大変勉強になりました。これからまたよろしく願いいたします。どうも今日はありがとうございました。(森田)」